

記念品にて
自宅へ送付

フェース枕マットレスで寝ながら鑑賞の1万メートルの旅

100%安全の深海観光艇

酸素ボンベと食料
備蓄で1週間生存

海底に錘が衝突するとフックがはれる仕組み

外球が破損しても内球が守る

「深海観光艇」は世界初の内容が多く、世界が注目し、1万m級の深海はお金に余裕のある人なら誰でもが一度は行ってみたい場所であり、超高額(100万円)でも予約殺到大繁盛間違いなしですので、スタートUP事業で、公募をされたらよいと考えています。

<背景技術>

世界で最も深い海はマリアナ海溝のチャレンジャー海淵は、深さが10920mで、この深度の高水圧では、深海探査船の設計及び運用が極めて困難であり、わずか4回の潜航が達成されたのみです。

しかしながら、よく考えてみて欲しいです。大型(バッテリーや酸素ボンベ等の重量物を数多く搭載するため、人も100人を超える仕様で浮力を確保するため)の完全球体で、堅固な二重構造やハニカム構造等で、ひたすら強度UPを図り、浮力装置やスクリュウ等の高水圧で不具合の発生の可能性のある可動部を排除すれば、余裕をもって成立すると考えています。(なぜなら、1万mの深海で暮らす動物がいるからです。また、細長い形状の潜水艇が成功している事実があり、完全球形なら、原理的・物理的に成立します。)

深海観光艇は、深海に移動するときはおもりを使い、深海から浮上するときにはおもりを外し、深海底単体の浮力を使うもので、重要なポイントは海底に到達したときにおもりが100%確実に外れる(二重の切り離し装置)ようにすることです。

<世界初の内容>

1. 1万メートルの深海底に安全に人が行けること。
2. 立体角360度のリアルな海底映像が楽しめること。
3. フェース枕を使つての下側(床側)の映像も見られること。
4. マイク&ヘッドホンにより、AIと直接母国語で話せること。
5. 動力がないのに1万メートルも安全に移動できること。

<公募内容>

1. (人を載せない)ミニシア版でのトライアル実証実験の概要
2. 実際に人を100人乗せる実物大の深海「観光探索艇」の概要
3. 継続的に儲かる&安全な運営形態の概要

公募してきた団体によるプレゼンの段階で、優秀な3団体を選出し、トライアル実証実験の内容を精査した上で、1. 項に関して東京都が費用を出す。
 (↑数億以内と想定)

トライアル実証実験の結果を踏まえ、また、2. 3. 項の見直しのプレゼンの結果、1 番優秀なシステムを提案したところに、二台分の実物試作費用及び数回の実験費用を東京都と国とが出して進める。(↑数百億以上を想定)

(一回目の実験では、猫や犬、さるなどを乗せて、前後での精密検査をする。)

ただし、運営が順調に進み、十分な利益がでたところで、東京都及び国に対して返納するものとする。

ANNEX-5 深海観光艇

日本のテンションワイヤーで固定
 上下・東西両方向の両方で
 コントロールセンターを制御

芯棒

複数のワイヤーで固定された「AIコントロールセンター」

おもりは、複数のクレーンで、海中で装着する。
 互いに反対方向に折れ曲がる設定。

フックが折れ曲がる仕様：
 おもりが海底に衝突すると慣性で観光艇がおもりにぶつかりフックが曲がる

重力和浮力を利用
 細長い形状でも深海に到達できるのだから、完全な球形で、頑丈に作れば、おもりを使い、安全に深海に到達し、おもりを外し戻ってこれます。
 特に動力を必要としない

日本
 大阪 東京
 小笠原海溝 (9801m)
 小笠原村
 南鳥島
 観光客急増をにらみ空港と港湾の同時整備
 グアム島
 マリアナ海溝 (10920m)

小笠原村又はグアム島で乗船・下船し、クレーン船で曳航され、世界二位の小笠原海溝、世界一位のマリアナ海溝深海の旅を満喫する。観光客は、透明なアクリル床にフェイス枕のマットレスに寝そべて、床下を見たり、天井を見たりします。AIと母国語で会話をする。

上図は、下記の仕様に基づき、チャット GPT (AI) に作らせた画像です、皆様も下記の文章に基づき、そのままコピペするか、多少の味付け文章を加えて、AI 画像を作成してみてください。

関連資料として、以下の URL もご参照下さい。

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_0c1d83d682134c4b971b81a1163b3d4a.pdf

100人以上搭載の海溝などの深海に行って帰ってくる「深海観光艇」

(浮力ー重力バランスを調整し、海底へはおもり付きで1時間程度かかり、浮上するときも、おもりを外し1時間程度で浮上するもので、全方位カメラによって、またAIによる母国語での解説によって、深海底の旅を楽しむもの)

ー 該観光艇は、1万メートルの超高水圧に耐えられるよう「完全球体」の分厚い鉄板での二重構造(ハニカム構造)で、スクリュウ等の可動部はありません。

上と下に大きなフックがついており、下のフックはおもりを吊り下げ、上のフックは該観光艇を大型観光船に付帯した大型クレーンで吊り下げるためのものです。

100人以上の観光客を乗せた観光艇は、おもりを吊り下げた状態で、大型クレーンで深い海溝などがある海中に投入され、おもりにより海底まで2時間程度かけて到達します。

また、海底に到達したら、おもりが外れ(慣性力で自然に外れる)、該潜水艇は2時間程度で浮上します。

海底におもりが衝突するとそこで止まり、該観光艇は落下の慣性力でおもりに軽く衝突し(観光艇の浮力により、強くは衝突しない)、このときにフックが折れ曲がり(折れ曲がる仕様)、フック部が外れ、すぐに該観光艇の大きな浮力によって浮上に向かいます、

もしフック部が外れなかったら、該観光艇のフック部のみを切り離すシステム(一つが故障しても二つ目を作動させることができる二重切り離し装置)によって、該観光艇のフック部が外れて、浮上できます。

注：おもりは、海底から引き揚げたがれきや泥をコンクリートで固めたものを使います。

該観光艇には窓がなく、該観光艇の外周部には、高輝度LED照明と超高感度カラーカメラ各1000台以上、超高水圧に耐えられるよう分厚いガラス越しに設置され、また、二重構造の内部は全体が1000台以上のTVモニターで覆われていて、該カメラの映像とTVモニターの映像とが1；1で対応します。

尚、各TVモニターには境がなく、まるで自然に空を見上げたり、海中に顔をつけて覗く感覚です。

しかも、下側も透明なアクリルの床ごしに見えるので、まさに 360 度の海底映像がバーチャルではなくリアルで見られて、周辺に餌をまくことで、多くの種類の異なる魚が集まってくる様子が見てとれ、しかも浅いところから超深海迄楽しめるとなれば、世界初&世界最高のエンターテインメントとなるでしょう。

該観光艇の内部には、透明なアクリル製の床が中間に設置されていて、観光客 100 人の各一人ひとりには、フェース枕マットレスがプレゼント（後で記念品として自宅に送付）され、寝そべって上を見たり、顔をフェース枕にあてて、下を見たりします。

また、観光客のひとり一人に、マイクとヘッドホンが渡され、AI から母国語で解説を聞いたり、いろんな質問ができるようにします。

該観光艇の外球の大きさは 40m、内球（内容積の直径）30m、中央部には地球の内核のイメージで、15m の球体の AI コントロールセンターが存在します。

AI コントロールセンターは複数のワイヤーで突っ張る感じで固定され、1F には、東西南北の 4 か所のトイレ、医務室（医師と看護師が常駐）と事務室、会議室等、2F はイス席での観覧が可能な天井ガラス張り軽食喫茶店があります。

地階は、Ai 制御センター、複数の超大型のバッテリー（2 系統電源で、1 系統が故障しても正常に作動する。）1 週間分の酸素ボンベと食料の備蓄を行う

また、AI によって、空調や換気、気圧調整を行うほか、深海底で見える生物などの解説を、1 人 1 人の観光客に対し希望する言語で解説してくれ、質問にも答えてくれます。

＜小笠原海溝とマリアナ海溝の二つの深海観光スポットを作る＞

ヒマラヤ山脈と負けず劣らず人気なのが第二位の高さを誇る K2 で、志の高い登山家なら、両方を踏破してから死にたいと願うように、世界一深いマリアナ海溝（チャレンジ海淵）に行ったら、ぜひ世界第二位の小笠原海溝にも行ってから死にたいと思うに違いありません。（K2 には、それなりの味わいがあり、同様に、小笠原海溝にはそれなりの味わいがあると考えています。）

日米が連携して、同じシステムを、一つはグアムに拠点を置き、もう一つは小笠原村に拠点を設置し、それぞれの拠点に「観光艇」の数十システムを常備し、観光客は各拠点で乗船して、各観光スポットまでクレーン船で曳航してもらい、そこから深海の旅にでかけます。

深海底は昼も夜も関係なく暗いので、（将来的に全 AI 化し）24 時間の運行が可能になると考えています。

深海観光艇が 100%安全な理由

1. バックアップ電源が2つあり、しかも、いざバックアップ電源を使おうとしたら、普段使っておらず、故障していた等のないよう、3系統の電源を順繰りに使うことで、作動確認を常に行うことができます。
2. 外球と内球の二重構造にし、外球と内球との間を高圧空気にし、常にAIが空気圧をチェックし、異常がないか確認をします。異常がない場合のみ、深海観光艇を運用します。（乗客は、異常のない深海観光艇に乗り換えます。）
3. タイタニックのようにならぬよう、もし岩盤等に衝突し、外球が浸水しても、内球の浮力だけで、浮上できるよう設計します。
4. おもりの下側に露出するように、フックと連動するロッドを設定し、おもりが海底や下側のおもりに衝突すると、ロッドが押し込まれ、フックが傾くようにします。また、第一おもりと第二おもりの間は、藁で作った太い縄にし、24時間程度で薬品や微生物で縄が切れるようにします。さらに、深海観光艇の下側に（一故障しても機能する）二段階のおもり切り離し機構を設定します。

深海観光艇の完璧な安全対策

人体に危害が加わる場合、あるいは発火や発煙の可能性のある場合では、一故障で発生しないようにする配慮があり、ごくごく稀な二つの故障が偶然重なってしまった場合は、(お詫びと保証で)許される。



深海観光艇では、二故障が偶然に重なったからといって、許されることはなく、どんな状況下でも、常に100%の安全性が求められている。

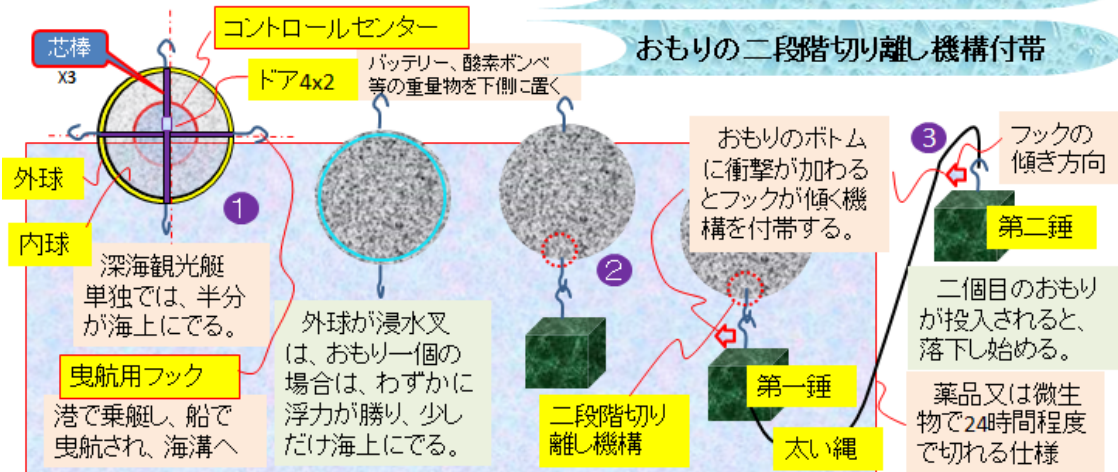
- ①小笠原港で乗艇し、大型クレーン船で小笠原海溝まで曳航される。
- ②観光艇をクレーンで釣り上げ、第一錘を引上げ、海上におろすと、少しだけ観光艇が顔を出す程度で、浮かんだ状態になる。
- ③船上の第二錘と海中の第一錘とを、太い縄(藁で作られている)で、あらかじめつないでおき、第二錘をクレーンで釣りあげ、海中に下すと「観光艇の浮力 < 第一錘 + 第二錘」で、深海に向かって発進する。

3系統の電源をAIが順番に使う。

二重構造の上に、空気圧で常に確認

万が一外球が浸水しても、浮上する

おもりの二段階切り離し機構付帯



世界中から直接これる飛行場

何十年も前から小笠原空港の設置に向けたアクションがあり、地形的に滑走路を長くとれない問題や環境保護の観点から、前進しない状況でしたが、父島北西部の「洲崎地区」旧日本軍の飛行場跡地に飛行場を作り、そこから海上で南に延びる、3360m x 100m の木造人工島の滑走路を作りたいと思います。（羽田空港のC滑走路と同じ長さで、どんな機体でも離発着が可能となる。）

コスト安い浮遊人工島ゆえに、潮の満ち干で高さが変わり、「潮の満ち引きフォロー機構」が必要ですが、それでもトータルコストで、従来型に比べ、1/10程度となると考えています。

液体ガラスコーティングにより（塩害で錆びやすい金属系と異なり）1000年維持、滑走路の納期も半年程度です。（密閉木箱を全国の工務店に発注する。）



海外から直接大挙して観光客が来るので、ホテルの用意も必要ですが、コストが安く、地震・津波にも安全な、木造人工島の木造ホテルがよいと考えています。

潮の満ち引きで上下に移動しないよう、家財や車、人が居ない状態で、海底の地形を調査し、各密閉木箱ごとに海底ぎりぎりに木製の土台柱をたて、家財が入り、車や人が入ると土台柱の先端が海底に埋まり、かえり部により、潮の満ち引きでの上下の移動がなくなると考えています。